

2019年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第2回研究会報告

高瀬 和実（東日本支部 副支部長）

12月14日(土)に2019年度東日本支部第2回研究会を大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション（開催校 山形大学）を会場に行いました。

この研究会では「地方圏の中小企業が取組むインターンシップ・プログラム事例から学ぶ」をテーマとしました。地方開催であることを活かし、実施にインターンシップを受入れている中小企業の経営者とお担当者をお招きし、どのような目的を持ってプログラムを企画・運営されているか等を実践報告としてご説明いただき、質疑応答からさらに参加者同士で意見交換を行いました。

まず、今回ご報告いただいたのは以下のお二方です。

実践報告① 佐藤 啓 氏（株式会社サニックス 代表取締役社長）

実践報告② 前盛 直人 氏（株式会社エム・エス・アイ 経営企画室 室長）

佐藤氏からは、自社における3日間のインターンシップ・プログラムについて学生と企業にとってのそれぞれの目的の設定やそれらを実現するための工夫、仕掛けについて詳しくご報告いただきました。入社2年目の若手社員を担当者として対応させる等なるべく多くの社員が関わる体制とすることでインターンシップが企業の業務の中に取り込まれている様子が伝わる内容でした。

前盛氏からは、15年以上前から留学生も含む全国の学生を集める魅力的なインターンシップ・プログラムのご報告いただきました。インターンシップこそが学生と企業が共に学び合う場であるという思いから、学生に対する教育的効果だけではなく、組織内に与える教育的効果を意識した良質のプログラムを実施されているとのご報告でした。



休憩を挟んでお二方と参加者が距離を縮めて活発な質疑応答が行われました。受入企業がビジネスマナーをしっかりとプログラムに入れる理由、連携団体として中小企業家同友会が一定以上の教育的効果を担保するために工夫している点等について説明がありました。また社内の理解をどのようにして得ているのか等、今回のような機会であればなかなか伺うことのできない示唆に富んだお話は大変貴重なものでした。質疑応答をきっかけに参加者同士の和やかな情報交換、意見交換が行われました。

最後に自由研究発表として山形大学の松坂先生・山本先生よりインターンシップ受入企業に関する研究報告があり、盛会のうちに第2回研究会を終えることができました。

